

I. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

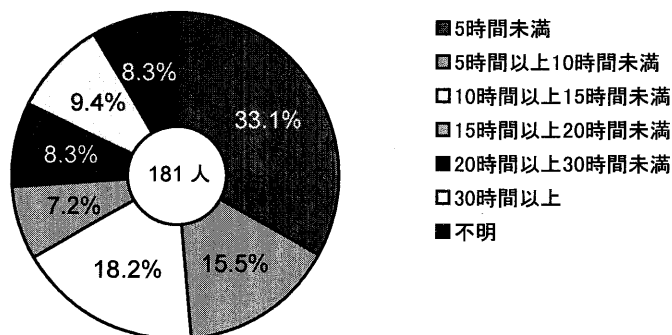
大できる、あるいは子供達の感性の育成につながるなど、派生的な要素に可能性を感じた」という意見も聞かれ、“地域をどうにかしたい”という視点でボランティア活動の意義を見出して参加している人もいる。

② ボランティア活動の頻度

活動の頻度は、ボランティアの位置づけ、業務の内容や個々人の関わりかたなどによってまちまちであるが、アンケート調査からみた平均は月間11時間半という結果が出ている。

- ・「武生国際音楽祭推進会議」や「プラネットステーション」のように、フェスティバルなど短期間に業務が集中する場合には、月間30～40時間などというケースも珍しくないようである。プラネットステーションの平均活動時間は月間25時間弱で、7事例の中でもっとも多い。「イベント開催中はほぼ毎日、何もなくても週1回は顔を出す」という声もあった。

■ 図表 I -15 ボランティア活動に従事する時間(月間)



- ・「たんば田園交響ホール」のように、登録されているスタッフ数が多い場合には、一人当たりの活動時間はそれほど多くない。「たんば」のステージオペレーターは90名近くが登録されており、年間平均出役日数は約8日。ボランティア全体でも41.4%が「月間5時間未満」と回答している。
- ・また、「喜多方プラザ文化センター」や「いまだて芸術館」のウラ方スタッフなど、技術を必要とする業務では、活動の頻度によって技術面に格差が出てしまい、技術を取得している人は実際に公演を手伝う機会も増え、更に活動頻度の格差が広がるという点も指摘されている。

実際の業務以外に、研修会・勉強会・懇親会などに要している時間は、平均で5.6時間程度。各ボランティアが個別に活動をしているため、月1～2回程度の「月例会」などを設けて、相互のコミュニケーションを図っているようである。

活動が部門別、企画別になっている事例では、各々のグループの代表同士(音響・照明部長、企画プロデューサーなど)は更に頻繁に集まって進捗状況の報告や調整を行っている。